

第34回東北総合体育大会サッカー競技 (少年男子)

戦評用紙

平成19年 8月10日(金) キックオフ (9時30分・13時30分)  
会場 あづま陸上・補助陸上・第2多目的

第 2 試合 宮城 県選抜 /  $\begin{bmatrix} 0 & -0 \\ 1 & -0 \end{bmatrix}$  0 山形 県選抜

《戦評記載者》 飯塚 悟 (勤務先: 福島県立安達高等学校)

宮城は4-4-2の中盤をボックス型、山形は同じ4-4-2ではあるが中盤をフラットに構成する。前半山形は、システムの違いから生じたサイドのスペースを有効に使い、特に左サイドから攻撃を仕掛け、チャンスを作ろうとする。

一方、宮城は2topを攻撃の起点とし、中盤の素早いサポートでパスを展開しアタッキングゾーンでの積極的な仕掛けからゴールを目指す。ゴール前の崩しに今一つ工夫がみられず得点を奪うまでには至らない。

後半、両チームとも攻撃的な選手を投入しシンプルに縦に攻撃を仕掛ける場面が多くなる。お互いに相手の一瞬の隙を突こうとするが、攻撃に参加する選手が少ないため厚みが無く、また暑さと疲労からか、運動量が減り、ゴールを奪う有効な攻撃にはなかなか結びつかない。このまま無得点で引分けかと思われた後半残り2分、宮城は素早いカウンターのパス交換から左サイドを突破し、ゴール前への折り返しを決め決勝点をあげる。

山形は左サイドDFの攻撃参加が厚みを作り、良いアクセントになっていたのに対し、宮城は本日2試合目の影響からか、ほとんど両サイドDFの攻撃参加が見られなかった。宮城は前線と中盤に個人技が高い選手が多く、前線で「タメ」を作り出すことができるので、DFの積極的な攻撃参加ができればより厚みのある有効な攻撃の形が見出せると思う。次戦に期待したい。

◇記録用紙の裏面にこの用紙を貼付して下さい。